

2025年度 事業報告書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

I. 事業の概要

II. 処務の概要

I. 事業の概要

1. 研究事業(公益目的事業1)

1-1 フェロー研究

フェローは、大学を定年退官した方で、基礎科学・基礎工学分野で顕著な業績を挙げた研究者を採用し、自らが研究した成果を各種論文誌及び雑誌等へ、広く一般に公表することで、科学技術の振興に寄与するものです。

(1) フェローと研究テーマ

2025 年度はフェロー1 名で研究活動を実施しました。

研究内容および成果の詳細は、豊田理研ホームページで公開の「豊田研究報告 No.79」に記載の通りです。

表 1. フェローと研究テーマ

在籍	氏 名	研究テーマ
4 年 目	前野悦輝（京都大学 名誉教授）	非従来型超伝導物質の研究

(2) フェロー研究報告会

フェローの研究成果を発表、議論するフェロー研究報告会を実施しました。表2に報告会の発表テーマ、発表者等の詳細を示します。

井口ホールでの現地聴講にオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で行いました。

表 2. フェロー研究報告会

第 37 回フェロー研究報告会			聴講者	141 名
日 時	2026 年 2 月 2 日(月)	形 式	豊田理化学研究所井口ホールで講演、 オンライン配信	
発表テーマ(発表者):				
① 非従来型超伝導への挑戦 (前野悦輝フェロー)				

(3) 豊田理研ワークショップ

豊田理研が主催するワークショップは、フェローが中心となって、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供することで、各研究分野の進展に寄与しようとするものです。

2025 年度は、表 3 に示す 1 件を実施しました。

表 3. 豊田理研ワークショップ

通算回数	開催日	場 所	テーマ	主催フェロー	参加者
17 回	2025 年 12 月 2 日 ～12 月 6 日	京都大学 本部キャンパス	Ruthenates and Emerging Quantum Materials (REQM2025)	前野悦輝	111 名

1-2 学術談話会

(1) 豊田理研懇話会

「最先端で活躍している著名な先生をお招きして、難しいことを、易しく」話していただくセミナー「豊田理研懇話会」は、年 3 回実施しています。

井口ホールでの現地聴講にオンライン配信を組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。豊田理研関係者のみならず、広く近隣の大学、研究機関の方々にもご参加いただいて、活発な討議が行われています。2025 年度は 3 回開催し、2012 年度に開始以来、通算の開催回数は 39 回となりました。セミナー題目、講演者の一覧を表 4 に示します。

表 4. 2025 年度 豊田理研懇話会のテーマ

回	年月日	講演者	セミナー題目
1	2025 年 6 月 9 日	東京大学大学院工学研究科 教授 古澤 明 氏 *トヨタコンボン研究所との共催	量子から考える 私たちはどこから来て、どこへ向かうのか？ 「量子テレポーテーションを用いた大規模光量子コンピュータ」 聴講者:667 名
2	2025 年 7 月 28 日	東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 特別教授・浜松プロフェッサー カリフォルニア大学バークレー校 マクアダムズ冠物理学教授 村山 斉 氏	ダークマターの正体を探る 聴講者:435 名
3	2026 年 3 月 11 日	千葉工業大学創造工学部 デザイン科学科 教授 一般社団法人フェーズフリー協会 理事 松崎 元 氏	境界を超える価値創造のデザイン 聴講者:454 名

(2) 物性談話会

名古屋大学と共催で、東海地方の物性物理学研究者の啓発を図る場として活動しています。2025年度は、表5に示す8回の談話会を開催しました。1963年に発足以来、通算の開催回数は453回となりました。

表 5. 2025 年度 物性談話会の活動

回	年月日	講演者	講演題目
1	2025 年 6 月 3 日	東京大学 准教授 山口哲生 氏	しなやかな植物組織のソフトマター物理学 聴講:40 名
2	2025 年 7 月 16 日	法政大学 教授 川端史郎 氏	量子力学から量子産業まで:量子コンピュータ を中心に 聴講:24名
3	2025 年 7 月 30 日	沖縄科学技術大学 教授 Nic Shanon 氏	量子スピン系の理論 聴講:30 名
4	2025 年 7 月 31 日	東京大学 教授 酒井崇匡 氏	超強靱ゲルの物理学 聴講:38名
5	2025 年 10 月 21 日	東京大学 教授 常行真司 氏	データ科学による第一原理計算の拡張 :結晶構造探索と液体の誘電率計算を例に 聴講:35 名
6	2025 年 10 月 27 日	慶應義塾大学 准教授 森 貴司 氏	多体系の量子ダイナミクスとしての非平衡統計力学 聴講:25 名
7	2025 年 10 月 31 日	東京大学 准教授 池田昌司 氏	ジャム固体の粘弾性 ・ ガラスとマヨネーズをつなぐ 聴講:22名
8	2026 年 1 月 9 日	東京大学 准教授 橋板昌幸 氏	エニオンの観測・制御実験 聴講:23名

(3) 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供する事を目的に、分子科学研究所と共催で開催しており、一般市民にも公開しています。2025年度は、表6に示す4回のフォーラムをオンライン形式で開催しました。1996年に発足以来、通算開催回数は145回となりました。

表 6. 2025 年度 分子科学フォーラムの活動

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2025 年 7 月 10 日	名古屋大学 教授 唯美津木 氏	観ることで広がる触媒の世界

2	2025 年 11 月 13 日	分子科学研究所 教授 岡本裕巳 氏	「ねじれた光」で見る左と右, 鏡写しの世界
3	2026 年 1 月 29 日	東京科学大学 準教授 伊澤誠一郎 氏	分子を使った光電変換の科学 ～革新的発光・発電素子の実現に向けて～
4	2026 年 3 月 14 日	国立天文台 上席教授 渡部潤一 氏 分子科学研究所 教授 秋山修志 氏	機構シンポジウム 特別講演 元素から紐解く宇宙と生命のものがたり 「僕たちは“星屑”から生まれた？」 「最古の体内時計が日の出を知らせた約 22 億年前のある日」

2. 助成事業(公益目的事業2)

2-1 豊田理研スカラー

豊田理研スカラーは博士の学位を有し、全国の大学に所属する優秀な若手教員が応募可能で、研究課題が当所の設立趣旨、目指す方向と合致する方を選定し、研究費用の一部を助成する制度です。

スカラーの選考に当たっては、外部委員を過半数とする審査委員会による審査を経て採択されます。

また、研究費用の一部を助成することにとどまらず、異分野若手交流会として、多くの大学の様々な研究分野にまたがる豊田理研スカラーの研究者を一堂に集め、合宿形式で、研究成果の発表を討論する場を設けています。この交流会には、熟練の研究者である豊田理研フェローや審査委員会委員なども参加し、研究内容や進め方に対する指導を行い、若手研究者の研究活動の活性化につながっております。さらに、異分野の研究者が異なる視点から議論することで、新しい気付きや新しい共同研究に繋がるアイデアの創出が期待されます。審査委員会委員には、この交流会の場で、研究助成のあり方などについてのご意見をいただくなど、助成制度の質の向上に向けた議論も行っております。

異分野若手交流会を通じて発案された共同研究テーマについては、追加で研究助成を行います。共同研究の Phase を3つに分け、各 Phase を勝ち抜いたチームが次の Phase へ進出する形式をとることで、研究チームを束ねるリーダーの育成も期待されます。

一方、豊田理研スカラーの中で、将来一流の研究者としての活躍が期待される研究者に対して、ライジングフェローとして、大型の研究助成を行うことで、研究のさらなる発展を加速させ、人材育成にも貢献しています。

スカラー共同研究の Phase1 の選考に当たっては、外部委員を過半数とする審査委員会による審査を行い、Phase2、Phase3 へ進むにあたっては、審査委員会とは別の評価委員会による審査を経て選考しています。

ライジングフェローの選考については、過半数の外部有識者を含むフェロー選考委員会による選考を経て決定しています。

このような豊田理研スカラーの研究から始まり、スカラー共同研究、ライジングフェローへと繋がる取り組みを通じて、豊田理研スカラーである若手研究者の研究の質の向上を図り、人材育成へとつなげていくものであります。

豊田理研スカラー、スカラー共同研究及びライジングフェローに採択された研究者と研究テーマ名は、豊田理研ホームページで公開すると共に、研究内容および成果は「豊田理研報告」に掲載し、広く公表しています。

(1) 豊田理研スカラー

2025 年度は、表 7 に記載の 60 名の研究者を豊田理研スカラーとして採択し、規定の研究助成金を支給し、研究推進を支援しました。研究は年初に策定した研究計画にそって実施されました。研究内容および成果は、豊田理研ホームページで公開の「豊田研究報告 No.79」に記載の通りです。

2011 年度の制度発足以来、採択者合計は 510 名になりました。

表 7. 2025 年度 豊田理研スカラーの所属と研究テーマ

No	大学名／専攻		氏名	職位	研究テーマ
1	北海道	工	菊川寛史	准教授	異なるタンパク質発現系を用いて生産した酵素の機能転換の実証
2		理	増田侑亮	助教	結合切断を鍵とするホスフィン配位子の多様性指向型合成
3			松岡慶太郎	助教	繰り返し構造の自在制御を可能とするマロン酸エステル合成型重合法の開発
4	東北	工	大塚啓介	准教授	次世代ロボット実現に向けた数式変換を代替するAIの構築
5			神永健一	助教	ナノグラデーションスピントロニクスの開拓
6		多元物質研	福山真央	准教授	マイクロ流体を用いたタンパク質凝集体検出法開発
7		金属材料研	谷口貴紀	助教	連携量子ビーム法による量子二重臨界性の研究
8		学際科学フロンティア研	松林英明	助教	細胞走化性の再構成に向けたPI3Kの光操作とin vitro再構成
9		薬学	菊池 隼	助教	超原子価ヨウ素骨格を基盤とした刺激応答性キラル分子の設計と機能開拓
10	福島県立	医	辻岡 洋	准教授	哺乳類と小型魚類のゲノムワイドな比較による脊髄再生能を規定する要因の解析
11		工	岸本史直	講師	ナノメンブレン被覆による担持金属ナノ粒子触媒の高機能化・新機能付与

12	東京	理	谷藤 涼	助教	核内現象を制御するマクロ環状中分子群の化学-酵素合成
13		農学生命科学	藤田 卓	助教	理論と実験を統合したオルニチンの相反的な代謝制御を最適化する薬剤候補探索
14		生産技術研	安村駿作	助教	ニューラルネットワークポテンシャルを活用した触媒活性点の局所構造と活性予測
15		物性研	川口海周	特任研究員	エネルギー・運動量空間で見るスピンと光が駆動する光スピントロニクスの新展開
16		新領域創成科学	吉見龍太郎	准教授	強誘電トポロジカル絶縁体における物性開拓
17		総合文化	大熊 光	助教	強いスピン軌道相互作用を持つペロブスカイト新物質作製で拓く磁気輸送現象の学術
18	東京科学大学	物質理工学院	安原 颯	助教	二相共存によるリチウムイオン伝導率向上と原理解明
19		フロンティア材料研	半沢幸太	助教	強誘電体太陽電池開発に向けたペロブスカイト型ナローギャップ窒化物のキャリア制御
20		自律システム材料学研究センター	菅井祥加	特任助教	グアニン四重鎖が織りなす液滴内ドメインの解明
21	慶應義塾	理工学	稲垣泰一	助教	化学反応を加速するマイクロ波特異効果の分子動力学的解明
22		工	岩崎 秀	助教	“異方的イオン拡散制御に基づく多価カチオンのインターカレーション
23	東京農工	工	倉科佑太	テニウアトラック准教授	細胞骨格のタイムラプス観察による超音波応答性イオンチャネル発現の解明
24			高瀬恵子	准教授	ナノ構造を利用した量子センシングと準粒子物性の開拓
25	芝浦工業	工	木須一彰	准教授	持続可能なエネルギー貯蔵を実現するカルシウム蓄電池の電極・電解液設計
26	中部	先端研究センター	服部倫弘	特任准教授	新規ペプチド骨格シラサイクリック化合物を基軸とした強化ペプチド創製および収束型合成技術の確立
27	名古屋	工	金子真大	助教	酸化ストレスと免疫原性細胞死の関係理解に基づくがん治療法の開発
28		理	岩波翔也	講師	数理科学手法による加齢特異的な血球産生の理解
29		トランスフォーマティブ生命分子研	宇佐見 享嗣	YLC特任助教	昆虫の生物機能を生体触媒に用いた新規機能性分子ナノカーボンの生産
30		学際統合物質科学	森 達哉	特任助教	分子内配位結合を鍵とする環境応答性円偏光発光を示すキラルホウ素 π 電子系の創製
31	名古屋工業	工	宮本辰也	准教授	新しいテラヘルツ分光法を用いたモット絶縁体における光誘起現象の超高速ダイナミクスの研究
32			成田麻未	助教	異種金属材料の固相接合に対する圧縮ねじり加工法の適用

33	岐阜	連合創薬	本田 諒	准教授	超分子標的薬の創成を目指して—新規RAS阻害剤Ver.3.Xの開発
34	三重	工	木下史也	准教授	n-GVSの印加間隔の違いが体平衡機能に及ぼす影響に関する研究
35			安藤ダニエル明	助教	到来方向推定のための複数の特化型深層ニューラルネットワークに関する基礎研究
36	京都	工	浦谷浩輝	特定助教	構造の乱雑さを考慮した励起状態速度論の確立と発光デバイスへの応用
37			西岡 季穂	助教	電池性能改善に向けた非水系溶媒中の電気化学反応の熱力学的理解
38		工	ムー ホイイン	助教	細胞内遊離銅イオンの比率測定型を可能にする蛍光分子プローブの開発
39		理	大友章裕	助教	熱源タンパク質の集積化による光熱エネルギー変換システムの開発
40			向吉 恵	助教	連続フロー合成法による金属ナノ粒子/MOFコアシェル複合体の創製
41		化学研	後藤真人	助教	価数不安定性を生かした巨大熱量効果材料の開拓
42		薬学	黒田悠介	特定助教	人工樹脂触媒によるジオールのモノ酸化
43			金尾英佑	助教	生体膜ナノ粒子の人工合成と生物学的機能の理解
44		物質・細胞統合システム拠点	吉村 柁彦	特定助教	革新的分子間相互作用測定技術の創出
45		豊田理研・京大連携拠点	ジョルダノ マットニ	特定助教	せん断ひずみで量子物質の電子特性を解明
46		農学	宗 正智	助教	アミロイド線維構造多型形成反応の直接観察による追跡
47	大阪	基礎工	大日方 初良	特任研究員	熱スピン注入を用いた半導体二次元電子スピンドバイス技術の構築
48		情報	佐々木 勇和	准教授	物質探索のためのグラフ深層学習の事前学習モデル
49		薬学	佐古 真	助教	新規不斉有機分子触媒の開発：環状キラルボリン酸の設計と合成
50		産業科学研	中村友哉	准教授	レンズレスカメラを用いた高精度三次元画像計測
51	関西	環境都市	樋口雄斗	助教	S字型CO2吸着等温線を示すゼオライトの賦形化技術と操作条件の確立
52	関西学院	理	秋吉亮平	助教	長鎖アルキル基を導入した含硫黄半導体配位高分子の合成と液晶性半導体材料の開発
53	岡山	異分野基礎科学研	田中健太	助教	可視光有機光触媒によるハロゲン化アリールの炭素-炭素結合形成反応
54		多元物質研	岡村秀紀	助教	薬理活性の時空間制御を可能とする光分子構築法の開発

55	広島	先進理工	樽谷直紀	准教授	金属水酸化物の単層ナノ粒子を利用した界面電気化学反応の探求
56			久野尚之	助教	ホスト・ゲスト錯体を用いたトポロジカルポリマーの創製
57	山口	創成科学	上田仁彦	准教授	繰り返しゲームにおける独裁的戦略の数理
58	九州	理	小川知弘	助教	超高速分光を用いた新規ユビキタス金属錯体の光機能の学理構築
59			野下浩司	助教	トロイダル調和関数解析に基づく三次元管状構造の定量評価法の開発
60		薬学	牛丸理一郎	助教	天然物合成酵素を利用した酸素依存性環化反応の開発

(2) 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、「豊田理研スカラー」を対象に、2016年度から「異分野若手交流会」を開催しています。2025年度は9/2～9/3にミッドランドホールにて155名が参加し実施しました。

さまざまな分野の研究者が集合し、異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、新たな研究テーマ創出の機会を提供しました。当年度採択スカラーに加え、過去スカラー採択者の参加を呼びかけ、年度を跨いだスカラー間の交流の充実を図りました。

(3) 豊田理研スカラー共同研究

この制度は「豊田理研異分野若手交流会」の場で、スカラー間で新たに生まれた「共同研究」に対して助成を行うもので、2016年度から始まりました。

2025年度は、スカラーコミュニティ(当年度スカラーおよび過去スカラー)の異分野若手交流会参加をきっかけに、参加者間での分野を超えた共同研究Phase1として9チームが活動しました。表8に、2025年度実施のPhase 1 9チームを示します。

表 8. 2025 年度実施 豊田理研スカラー共同研究 (Phase1)

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	東京科学	寺坂尚紘	特任准教授	マイクロ流路デバイスを用いたセルフリータンパク質進化
	立命館	磯崎瑛宏	准教授	
2	大阪	重光 孟	講師	コア・シェル型超分子光増感剤による次世代低侵襲フォトメディシンの開拓
	名古屋	佐藤和秀	特任講師	
3	北海道	石垣侑祐	准教授	膜透過プロセスの解明に向けた環境応答性分子の開発とリアルタイム検出法の確立
	関西学院	佐藤浩平	准教授	
	九州	宮田潔志	准教授	

4	福井県立	篠原秀文	准教授	植物ペプチドホルモンの進化多様性を解明するドライとウェットの真の融合研究
	筑波	原田隆平	准教授	
5	筑波	鄭サムエル	助教	赤外レーザーを用いた電気化学反応制御法の開発
	東京	森近一貴	助教	
6	東邦	柳瀬 隆	講師	化学気相蒸着法による 2 次元金属カルコゲナイドの基盤的合成技術の確立と機能性デバイスの開発
	信州	浦上法之	准教授	
	豊橋技科	引間和浩	助教	
7	東京科学	相馬拓人	助教	薄膜における超高速分光：準安定量子物質における非平衡電子相の開拓
	東京	鈴木 剛	助教	
8	慶應	小川愛実	専任講師	ラフ集合を用いた安全・安心な次世代在宅リハビリテーション支援システムの開発
	九州	顧 玉杰	助教	
	京都	石井順恵	助教	
9	東京科学	金森功吏	助教	合成化学とゲノム生物学の融合による化学的遺伝子制御法の基盤技術開発
	九州	河添好孝	助教	

また、Phase1の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、スカラー共同研究評価委員会により選出された 3 チームが Phase2 へ移行しました。Phase2 は 2 年間支援します。2025 年度に実施した 1 年目 3 チームを表 9 に、2 年目 3 チームを表 10 に示します。

表 9. 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 (1 年目)(***チームリーダー**)

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	名古屋工業	*大幸裕介	准教授	イオン伝導性ガラスを用いた超小型人工衛星に搭載可能なタンクレス固体推進機の開発
	豊田工業	渡邊保真	准教授	
	三重	田港 総	助教	
2	早稲田	*出浦桃子	准教授	排熱有効利用システムに向けた熱電と蓄電のデバイス性能向上
	豊橋技科	引間和浩	助教	
	大阪	石部貴史	講師	
	三重	田港 総	助教	
3	防衛医科	*杉山夏緒里	助教	しなやかさに着目した血管老化モデルの構築
	名古屋	清水一憲	准教授	
	静岡	大多哲史	准教授	
	京都	三浦理紗子	助教	

表 10. 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 (2 年目) (*チームリーダー)

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	名古屋	* 田畑 亮	特任講師	持続可能な食料システム構築および宇宙農業を目指した植物栄養吸収制御と土壌開発
	筑波	重田育照	教授	
	慶應義塾	高橋英俊	准教授	
2	大阪	* 大塚洋一	准教授	薬物動態・代謝を可視化する高空間分解能質量分析イメージング技術の開発
	名古屋市立	小山 聡	教授	
	岐阜	古山浩子	准教授	
3	京都	* 菅瀬謙治	教授	動的溶液環境のセンシングおよび液-液相分離の制御と計測
	名古屋	吉田紀生	教授	
	岐阜	池田 将	教授	
	豊橋技科	永井萌土	教授	
	京都	中曽根祐介	助教	
	京都工芸繊維	櫻井康明	准教授	

2-2 フェロー研究助成

2-2-1 ライジングフェロー

日本国内の大学に所属する教員で、科学技術の分野において世界をリードする研究者に対して、大型の研究助成を継続的に実施することにより、研究の更なる進展を加速し、学術の振興、発展、および人材育成に貢献するための支援制度です。

過去に豊田理研スカラー採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者に助成を行う事で、将来一流研究者としての活躍が期待される者を「ライジングフェロー」として 5 年間サポートしていきます。

2025 年 7 月には、フェロー選考委員会において、2026 年度から支援を行う予定の 1 名をライジングフェロー候補者として採択いたしました。2025 年度は、新たに支援を開始した1名を含め、2 年目の 3 名を加えた 4 名を支援いたしました。ライジングフェロー 5 名を表 11 に示します。

表 11. ライジングフェロー

	氏名	研究テーマ
2025 年度 採択	大阪大学 教授 鈴木啓一郎	体内が“薬の製造プラント”となる未来型医療の実現
1 年目	東京科学大学 准教授 打田正輝	量子幾何学非対角輸送応答の開拓
2 年目	東北大学 准教授 大野真之	アニオンの複合化で拓く固体イオニクスのフロンティア
	京都大学 教授 後藤佑樹	ハイブリッド擬天然物ペプチド戦略の推進
	大阪大学 特任准教授 朴 昭映	生体分子アンサンブルによる機能性核酸の開発と創薬基盤プラットフォームの構築

2-2-2 シニアフェロー

世界トップレベルの業績をあげている定年を控えた一流研究者に助成を行う事で、所属する大学等を拠点に研究を継続していただき、当該分野の更なる進展が期待される者を「シニアフェロー」として支援する制度です。

なお、シニアフェローの募集は、ライジングフェローの応募・採択状況により検討していきます。2025年度までに採択者はありません。

2-3 特定課題研究

2021年より特定課題研究の募集を休止しています。

(2021年10月11日 第43回理事会 承認済み)

2-4 若手人材育成

科学技術の分野で、海外の大学院で博士号(Ph.D.)取得を目指す日本国籍の学生に対して、その留学を支援することにより、国際的に活躍できる人材の育成を図ることを目的に、2019年度より海外大学院進学支援を行っております。。

応募条件は、

- (1)国際科学オリンピックの国内大会一次選考(予選)通過者
- (2)国際バカロレア認定校(DP)卒業者 (スコア>36以上)
- (3)大学や財団などによって選抜され、2ヶ月の海外留学、インターンなどを経験した者。
(ただし、単なる語学留学は除く)

としており、いずれも一般に広く門戸が開かれています。

応募者の選考に当たっては、理工系の大学教員やその経験者である外部委員を過半数とする若手人材育成選考委員会による審査を経て、決定しております。

助成対象者は豊田理研ホームページで公開しており、定期的に留学の状況を報告書として提出し、その内容は豊田理研ホームページで広く公表しております。

2025年度は、2025年3月～5月にインターネットを利用して公募を行いました。その結果、若手人材育成選考委員会で書類選考、面接選考を行い、表12の通り、進学コース10名と準備コース1名を採択しました。

表12. 海外大学院進学コース2025年採択者

氏名	阿江伸太郎
在籍大学	東京大学大学院 工学系研究科
留学先	オックスフォード大学
留学開始	2025年10月～

氏名	今村啓人
在籍大学	東京科学大学 医学部
留学先	カリフォルニア大学サンタバーバラ校
留学開始	2026 年 9 月～

氏名	王 方正
在籍大学	東京大学大学院 工学系研究科
留学先	スタンフォード大学
留学開始	2025 年 9 月～

氏名	桑原涼歌
在籍大学	早稲田大学 先進理工学部
留学先	ジョージア工科大学
留学開始	2026 年 8 月～

氏名	讃井彩夏
在籍大学	慶應義塾大学 環境情報学部
留学先	コーネル大学
留学開始	2025 年 9 月～

氏名	銭 優希
在籍大学	東京大学大学院 総合文化研究科
留学先	オックスフォード大学
留学開始	2026 年 9 月～

氏名	武樋力哉
在籍大学	早稲田大学 基幹理工学部
留学先	マサチューセッツ工科大学
留学開始	2026 年 9 月～

氏名	土田美咲
在籍大学	京都大学 農学部
留学先	スイス連邦工科大学ローザンヌ校
留学開始	2026 年 9 月～

氏名	林 泰瑤
在籍大学	京都大学大学院 理学研究科
留学先	スイス連邦工科大学ローザンヌ校
留学開始	2026 年 9 月～

氏名	福西咲穂
在籍大学	京都大学 理学部
留学先	カリフォルニア大学バークレイ校
留学開始	2026 年 8 月～

海外大学院進学準備コース 2025 年採択者

氏名	久野 証
在籍大学	東京大学大学院 情報理工学系研究科
準備活動	短期海外研究インターンシップ等

2年間の支援を終えた学生らは、現在も現地でPh.D.取得に向け留学中です。今後続く後進のメンター役や、将来の豊田理研のコミュニティづくりなどにも協力してもらうため、留学支援終了後も追加支援を行っています。

3. 寄付

豊田理研では、若手人材育成を目的とした、寄付を行っております。

寄付の原資は、法人会計であって、豊田理化学研究所の各種事業、活動実施後に発生した余剰金から支出し、寄付対象は定款、公益性に適合するもので、具体的な寄付先・金額等はその都度、理事会、評議員会で承認、決議することとしています。

2025年度は、科学技術の振興に向けた人材育成に関する支援に加え、今後、公益事業拡大に向けた調査、試行のため、理事会、評議員会の承認、決議を経て、表13に示す対象先に総額2,500万円の寄付を行いました。

表 13. 寄付先

寄付先	人材育成の主な対象
一般社団法人研究基盤協議会	技術職員
NPO 法人 STS フォーラム	若手研究者
公益財団法人数学オリンピック財団	高校生
一般社団法人 STudent-Academia Research Project (ST-AR Project)	
九州大学 QURIES プロジェクト(伊藤早苗記念基金)	

4. 広報活動

4-1. 豊田研究報告の刊行（第 78 号）

2024 年度在籍のフェロー、客員フェローの研究報告に加え、豊田理研スカラー、スカラー共同研究の研究報告を発行しました。(2025 年 6 月)

詳細は、豊田理研ホームページに掲載しております。

4-2. アニュアルレポートの発行

2024 年度の財団 1 年間の活動を掲載したアニュアルレポートを 2025 年 6 月に発行しました。財団の取り組み、目指すものを分かり易く記録としてまとめました。

4-3. ホームページの維持、管理

当財団の理念、および助成制度を若手研究者や広く一般の方に分かり易くお伝えすることを目標に、ホームページを刷新いたしました。従来の「財団概要」、「事業紹介」、「募集情報」、「イベント情報」等を分かりやすく整理するとともに、人材育成に注力する運営方針や新しい助成制度の魅力がより直接伝わるサイトにしております。

掲載内容をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたします。また、更に分かりやすいホームページを目指して改良を進めて参ります。

Ⅱ．処務の概要

1. 役員に関する事項

(1) 理事改選

2025 年 6 月の定時評議員会において、理事 9 名を選任いたしました。理事は全員再任となります。また代表理事及び業務執行理事を除く7名は外部理事を選任しております。

理事は、事業の内容を考慮し、研究及び研究機関の運営に精通した専門性の高い人材であり、年齢、性別、所属などのバランスを考慮して選任しております。

(2) 監事について

現監事(全1名)につきましては任期中であり、改選の対象ではありませんが、外部監事としての条件を満たしております。

また、監事による監査の他、公認会計士による監査も実施しております。

(3) 評議員選任

内山田竹志評議員の辞任に伴い、2025 年 6 月の定時評議員会において、古賀伸彦評議員を補欠選任いたしました。

現在の評議員数は、7名となります。

なお、外部理事、監事及び評議員が役割を全うするために、事業に関する説明、理事会・評議員会に関する事前の説明を、個別に実施し、情報提供を行うとともにご意見をいただく機会を設けております。

2. 職員に関する事項

2025 年度末の職員数は、研究職員 1 名、事務職員 9 名の総勢 10 名です。

3. 不祥事の予防・発見・対応への仕組み

役職員による不祥事の予防、発見、対応のために、当財団では、「倫理規程」、「コンプライアンス規程」、「リスク管理規程」を制定しております。

また、研究不正の防止に係る規程として、「豊田理化学研究所における研究活動の不正行為への対応に関する規程」も整備しております。

2025 年 4 月からは「内部通報規程」を制定し、財団内の窓口の他、オールトヨタスピークアップ窓口も、通報および相談を受け付ける窓口として利用可能な体制としております。

また、顧問弁護士とも契約し、相談を受け付ける体制を整えております。

4. 役員会に関する事項

表 14 に示すように、2025 年度は、通常理事会 2 回、臨時理事会 4 回、および定時評議員会 1 回、臨時評議員会 1 回を開催いたしました。

表 14. 理事会、評議員会の開催状況

役員会	開催年月日	議案	結果
第 60 回 通常理事会	2025 年 6 月 10 日 (火)	1) 2024 年度 事業報告書承認の件 2) 2024 年度 決算報告書承認の件 3) 理事候補者の件 4) 評議員選任の件 5) 第 31 回評議員会 (書面審議) 開催の件 その他、職務執行報告等、事業の方向性議論	承認 承認 承認 承認 可決
第 31 回 定時評議員会 (書面審議)	2025 年 6 月 25 日 (水)	1) 2024 年度 事業報告書の件 2) 2024 年度 決算報告書の件 3) 理事候補者の件 4) 評議員選任の件	可決 可決 可決 可決
第 61 回 臨時理事会 (書面審議)	2025 年 7 月 4 日 (金)	1) 代表理事、業務執行理事、理事長、所長及び常務 理事選定の件 2) 所長、常務理事の報酬額の件 3) 企画・運営委員会 委員選任の件 4) 評価委員選任の件	可決 可決 可決 可決
第 62 回 臨時理事会 (書面審議)	2025 年 8 月 8 日 (金)	1) 2026 年度 ライジングフェロー候補者の件 2) 2025 年 海外大学院進学候補者の件	可決 可決
第 63 回 臨時理事会 (書面審議)	2025 年 11 月 14 日 (金)	1) 株式会社豊田自動織機の TOB の対応の件 2) 研究助成予算増額の件	可決 可決
第 64 回 臨時理事会 (書面審議)	2026 年 3 月 3 日 (火)	1) 「第 32 回評議員会」招集の件	可決
第 65 回 通常理事会	2026 年 3 月 23 日 (月)	1) 2026 年度 事業計画書および収支予算書等の承認 の件 2) 海外金融資産取得の件 3) 役員報酬の件 4) 寄付の件 その他、職務執行報告等、事業の方向性議論	承認 承認 承認 承認 承認

第 32 回 臨時評議員会	2026 年 3 月 23 日(月)	1) 寄付の件 その他、上記理事会 1)～3)報告	可決
------------------	-----------------------	------------------------------	----

付属明細書について

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2026 年 6 月
公益財団法人豊田理化学研究所